

## 市民公開講座の案内

# 「進化する生物の世界ー生体高分子から生物多様性 脳 - 神経系から人間社会まで」

主 催：日本進化学会・日本学術会議基礎生物学委員会  
統合生物学委員会合同進化・系統学分科会  
共 催：京都大学グローバル COE<生物多様性と進化>  
新学術領域<複合適応形質進化の遺伝子基盤解明>  
日 時：平成 23 年 7 月 31 日 (日) 13:00~17:00  
場 所：京都大学時計台百年記念ホール

### ○開催趣旨

高校生や一般人を対象にした公開シンポジウムである。地球上に生息する生き物のダイナミックな進化の様子を、DNA やタンパク質などの変異から、単細胞の生物、多細胞生物の生理的な表現型可塑性やエピジェネティクスを介して生物多様性へ、さらには動物の脳ー神経系が司る学習行動から人間の言語の進化まで広く観ることで、生物進化の新しい理解を探るとともに、進化学最前線の面白さを若い世代にやさしく伝えたい。

なお、平成 24 年度から施行される新学習指導要領の高校生物にも一部対応したテーマが新たな切り口で展開されるので、進化教育にも資する企画である。

### ○コーディネーター

嶋田 正和

東京大学大学院総合文化研究科・教授  
日本学術会議連携会員

長谷部 光泰

自然科学研究機構・基礎生物学研究所・教授  
日本学術会議連携会員

### ○演題・演者等

長谷部 光泰

(自然科学研究機構・基礎生物学研究所・教授  
日本学術会議連携会員)

「はじめにー現代進化生物学の面白さ」

山岸 明彦 (東京薬科大学生命科学部・教授)

「古細菌からわかる生命の初期進化 40 億年前の世界」

加藤 茂明 (東京大学分子細胞生物学研究所・教授)

「第二の遺伝暗号ーエピゲノム」

清水 健太郎 (チューリッヒ大学理学部・准教授)

「気候変動によって植物は進化するか？」

伊藤 元己 (東京大学大学院総合文化研究科・教授)

「生物多様性のバイオインフォマティクス」

岡ノ谷 一夫 (東京大学大学院総合文化研究科・教授、日本学術会議連携会員)

「動物コミュニケーションから考える言語の起源」

岡田 典弘 (東京工業大学大学院生命理工学研究科・教授)

「種分化の分子基盤：ヴィクトリア湖の魚たち」

嶋田 正和 (東京大学大学院総合文化研究科・教授、日本学術会議連携会員)

「おわりにー進化学の最前線と進化教育：新学習指導要領への高大連携」

問い合わせ先

阿形清和

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

京都大学・理学研究科・生物物理学教室

Tel: 075-753-4200, Fax: 075-753-4203

e-mail: agata@mdb.biophys.kyoto-u.ac.jp